

成果報告書

2016年度助成	所属機関	相模原市立青根小学校	
役職 代表者名	校長 倉田 秀文	役職 報告者名	総括教諭 山本 弘
タイトル	レッツ！トライ！ESD！～地域環境を活かしたESDの実践～		

※ご異動等で現職の方では成果発表が難しい場合、上記代表者または報告者による代理発表を可といたします

1. 実践の目的（テーマ設定の背景を含む）

本校は、全校児童7名の極小規模な学校である。相模原市の西北部に位置し山梨県との県境にあり、周囲は山林と畑に囲まれた自然豊かな環境にある。青根地域の人口は約550人、少子高齢化・過疎化が進行しており、地域の持続可能性が喫緊の課題である。

そこで本校では、数年前から「地域とともに生きる学校」として地域の持続可能性と真摯に向き合い、関わり合いながら教育活動[持続可能な開発のための教育(ESD)]を行ってきた。生活科・理科・総合的な学習の時間を中心に、人と関わる活動や自然の中での体験活動を重視した教育活動を推進し、持続可能な社会の創り手を育みたいと考えた。これまでの子どもたちの学びの様子を見てみると、一生懸命活動には取り組んでいるものの、「地域の良さや課題を見つけ、良さを自分なりに広め保全したり、解決したりする」までには至っていない現状が見られた。そこで、引き続き、生活科・理科・総合的な学習の時間を通して、より一層子どもたちにとって「実感と納得のある授業」をめざして、自分や地域を大切し、「自分ができるところを考え実践できる子」の育成に取り組んでいきたいと考えた。

2. 実践にあたっての準備（機器・材料の購入、協力機関等との打合せを含む）

①実感を伴った理解が深まるための体験的活動のための準備

- ・ICT 機器の整備(タイムラプスカメラなど最新映像機器の購入、デジタルカメラ購入)
- ・児童一人一人の観察、実験のための教具・教材の整備

②上下流域小学校交流事業に応募(神奈川県水源地域交流の里づくり推進協議会)

③学校林(あおりん)の整備 → 青根小学校新学校林創生協議会との連携

④職員研修 外部講師:相模原市環境情報センター職員

⑤地域協力者との打ち合わせ(りんご栽培活動・農園栽培活動・あおりん観察・稲作活動など)

⑥相模原市教育委員会との連携

3. 実践の内容

(1) 「川の上流域(青根)から下流域(茅ヶ崎)までの観察調査」(上下流域交流事業活用)

川の上流域(道志川青根)・中流域(相模川高田橋付近)・下流域(茅ヶ崎)に生息している水生生物の観察や水質調査を通して身近な自然に関心を持つとともに、環境を守るために自分たちができることを考えた。

- ① 水生生物調査・・・川に住む生き物(指標生物)を調べることで、水のきれいさを判定する。
- ② 水質検査・・・パケットを行い、水のごみを測定する。
- ③ 聞き取り調査・・・釣りや散歩などで、日頃川の様子を見ている人に聞き取りをする。



(2) 「学校林(あおりん)自然観察」

学校の裏山にある学校林(あおりん)の生き物を中心とした環境を調べ、生き物の命をつなぐ工夫について考えることができるようにした。自然観察の際には、6月と11月に外部講師を招き、あおりんの環境について話を聞くことができた。また、学校林のナラの木を使って椎茸栽培も行った。

- ① 植物・樹木の観察
- ② 昆虫と植物の関わり(受粉の工夫)
- ③ 野鳥観察
- ④ 季節の違いを意識した自然観察



(3) 理科「流れる水のはたらき」

流れる水にはどんな働きがあるか。水の量が増えるとその働きはどうなるのかについて予想を立て、砂山にホースから水を流した実験を動画で撮り、その様子を肉眼でも観察した。記録した動画を繰り返し再生しながら、流れる水の速さの違いや、砂が浸食、運搬、堆積されている様子に気づいた。実験結果(仮説)をふまえた上で、近くの道志川に校外学習に行って実際の川の様子と見比べ、仮説を証明する場所を写真に記録し、その様子を科学的な言葉を使って自分の考えを表現しまとめた。

(4) 「学習発表会」の開催

一年間の学習成果を保護者、地域の方々、他校の教員を招き、発表する。成果をわかりやすく共有化するためにも劇化(児童とともにシナリオを作成し、それをもとに表現し発表する)して、よりわかりやすくプレゼンした。

4. 実践の成果と成果の測定方法

子どもたちが見せる授業の中での姿や発言、記録したノートやふりかえり（感想文等）、調査結果や観察結果をまとめたレポートなどを通して、子どもたちの姿の変容を見取ることができた。

（1）「川の上流域(青根)から下流域(茅ヶ崎)までの観察調査」(上下流域交流事業活用)

上流域、中流域、下流域の三地点で観察調査を経年で行ったことで、比較して考えることができた。その結果から自分たちの住んでいる地域(上流域)は、他と比べて、川の水はきれいであることがわかり、青根地域の良さをあらためて知ることができた。

また、自分たちの身近にある川の水も海の水につながっていることが実感でき、自分たちの住んでいる水源地域の環境を守らなければならないという意識を持つようになった。以前、水路に洗剤の泡があったことから、家庭科の学習で知った「アクリルエコたわし」を作って、近隣の民家に配付する活動を行った。



（2）「学校林（あおりん）自然観察」

学校林（あおりん）をフィールドに観察したものを各自が写真撮影し、名前やその特徴などを調べ、カード化することができた。また、視覚、聴覚、触覚などのあらゆる感覚を働かせた活動をしたことで生き物の命のつながりについて考えたり、青根の環境の素晴らしさにあらためて気づいたりすることができた。さらに青根の良さをもっと知ってもらいたい、もっとPRしたいとの思いから学校林（あおりん）の頂上に植樹（シダレザクラ、アジサイ）を計画した。新学校林創生協議会の方々に計画書を見ていただき、了解を得て、植樹を実施することができた。



（3）理科「水の循環」「雲と天気の変化」「流れる水のはたらき」

教育課程の中で取り組んでいる「水源林の探索」「あゆの稚魚の放流」など、青根地区ならではの自然事象との出会いと体験活動が、五感を働かせ、興味関心意欲を高めるとともに、水が姿を変え、循環しているという実感と納得の伴う理解につながった。また、児童一人一人が実験観察の様子を撮影記録できるようにデジタルカメラやタブレットを使用した。カメラのタイムラプス機能や動画撮影を活用し、雲のわき立つ様子や、砂山を流れる水の働きを繰り返し再生して観察することで、じっくり考えることができたり、予想や仮説を証明する事実が記録できたりするなど観察や実験を充実することができた。

（4）「学習発表会」

生活科・理科・総合的な学習の時間・ESD で関わった方や地域の方を招き、一年間学んだことや自分の思いを劇化して報告した。地域で得た学びを地域や地域以外にも発信することができた。



【学習発表会参加者の感想】

- ・実際に自分たちが活動することで、青根を守ろうとする気持ちが伝わってきて、生きた学習になっていることを実感しました。
- ・自然の厳しさ、命あるもののたくましさ、食べ物への感謝など一年間学んできたことを生き生きと演じていました。
- ・青根が守っていかなければならない宝・命とは何かということをあらためて思い知らされました。

5. 今後の展開（成果活用の視点、残された課題への対応、実践への発展性など）

- ・生活科・理科・総合的な学習の時間で「実感と納得のある学び」「問題を解決していく方法」「表現の楽しさ」を学んだ子どもたちが、青根小学校で取り組んでいる ESD に自らが進んで取り組めるように活かしていきたい。
- ・引き続き地域に根ざした学習活動を実践していくうえで、地域の特色や環境が生かされる教育課程の編成を考えていく必要がある。
- ・体験的な学習活動の展開を見通し、実施できる教師の指導力の向上を図っていく必要がある。

6. 成果の公表や発信に関する取組み

※ メディアなどに掲載、放送された場合は、ご記載ください

- ・桂川、相模川流域協議会会報「あじえんだ113」 2018年3月第40号に掲載
- ・学習発表会 平成30年2月17日(土) 平成31年2月16日(土)
- ・学校日より、学校ホームページで取り組みや成果を公開

7. 所感

生活科・理科・総合的な学習の時間や日々の教育活動の中で、実感を伴った体験活動を多く取り入れ、子どもたちの学びを深めることができた。また、地域の自然や人とふれあいながら、自然環境と人間の共生について考え、自然を愛する心情を育てることができたと考えている。

これからも引き続き「地域とともに生きる学校」のビジョンのもと、地域に根ざした学習活動を実践する中で、様々な活動から課題を整理し、課題解決に向けた実践力を養いながら、自主的・意欲的に学ぶ子どもを育成していきたい。

この機会を与えていただいた日産財団の皆様には心より感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。